

甲斐市立双葉西小学校 自己評価書

令和3年 2月 18日 (木) 作成

校長 「平塚 克人」 記述者 職名 (教頭) 「小宮山 昇」

学校教育目標 「ともに学び、ともに育つ」

学校経営方針

- ・基本：教師力の向上・信頼によるチーム力の発揮・創意ある協働
- 1 学校教育目標「ともに学び ともに育つ」を常に意識し、めざす「こども像」「学校像」「教師像」の実現に向け、積極的に教育実践に取り組む。
 - 2 PDCA サイクルを生かし、より質の高い教育活動を構築する。
 - 3 意欲的に研修に励み、専門職としての資質・能力の向上に努める。
 - 4 信頼される学校づくりの実現に努める。

作成にあたって

○「教職員自己評価」を中心に「児童アンケート」「保護者アンケート」を加味しながら分析を行った。

○結果については、以下の考えを基本としてまとめていくことにした。

教職員自己評価に関して

- ・ A回答（そう思う）と B回答（ややそう思う）を合わせて肯定的な回答として捉えることとし、AとBを合わせた回答率が90%を上回る項目は「達成できている」と評価する。
- ・ 肯定的な回答の回答率が80%を下回る項目は「本校の課題」とする。
- ・ 市内小中学校の数値と比べて、A回答に10ポイント以上上回る項目は、「本校の特長」として捉える。

保護者アンケート・児童アンケートに関して

- ・ 教職員自己評価と関連がある項目について適宜取りあげる。

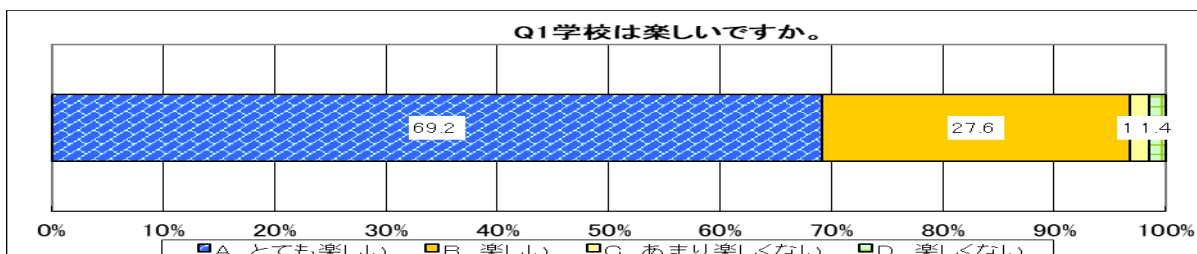
1 全体評価

○教職員自己評価から

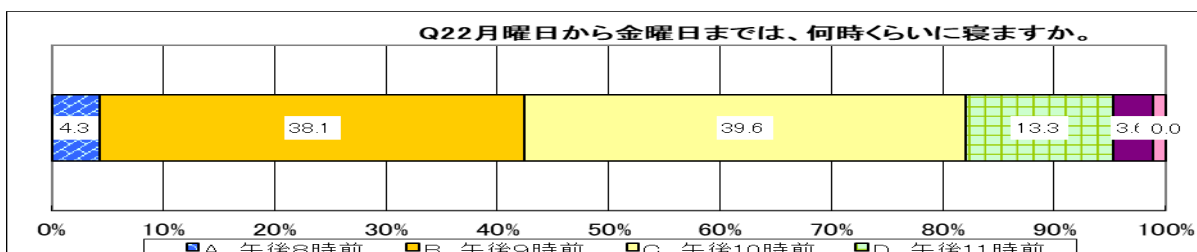
- 肯定的な回答が57項目全てで90%を超えており、全ての項目が「達成できている」と評価できる。つまり、本校職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることがわかる。

○児童アンケートから

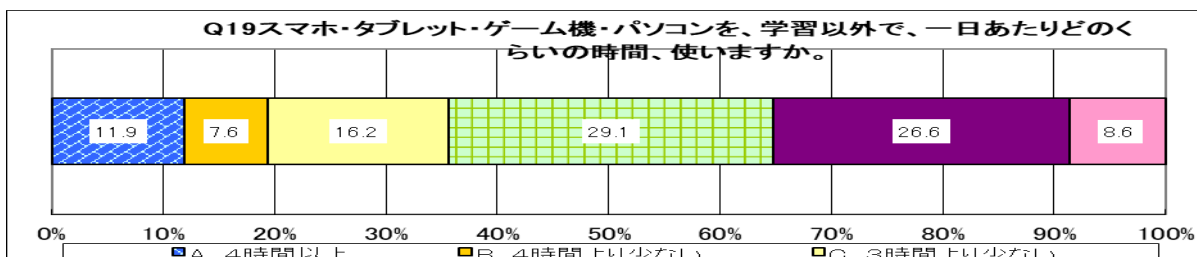
- 肯定的な回答（90%以上）が27項目中24項目あり、児童は概ね充実した学校生活を送っていると考えられる。特に「地域の人が助けてくれる授業はためになっていますか。」の項目についてはA回答だけで86%を超えており、全質問の中で最も高い評価を得ている。まさにコミュニティ・スクールにふさわしい成果が出ているといえる。また、「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」の項目についても、A回答だけで85%となっており、児童と教師の信頼関係が成り立っていることがわかる。
- 一方、ほぼどの項目においてもC、D回答の児童がいることには留意しておく必要がある。授業や生活の様子等を個別に対応していく必要がある。



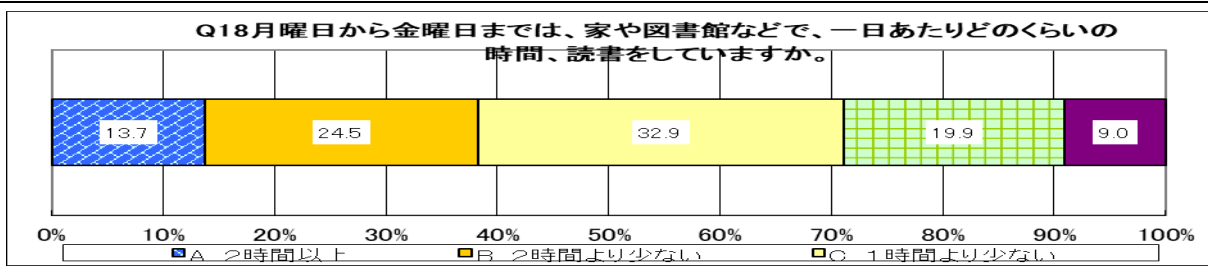
- この中で最も肯定的な回答率が低かったものは、Q22の就寝時刻で、午後9時以降に就寝する児童が58%にもなる。健康な生活を送る上で小学生は9時間から10時間の睡眠時間が必要であるため、好ましい状況とは言えない。意図して学校で指導を行い家庭にも啓蒙を図っていく必要がある。



- Q19のスマホ、タブレット、ゲームの使用時間も2時間以上が36%と多い。4時間以上という児童も13%もある現状であることがわかる。学級指導や保健等の授業で扱い児童に指導をする一方で、保護者への啓蒙を行っていく必要がある。

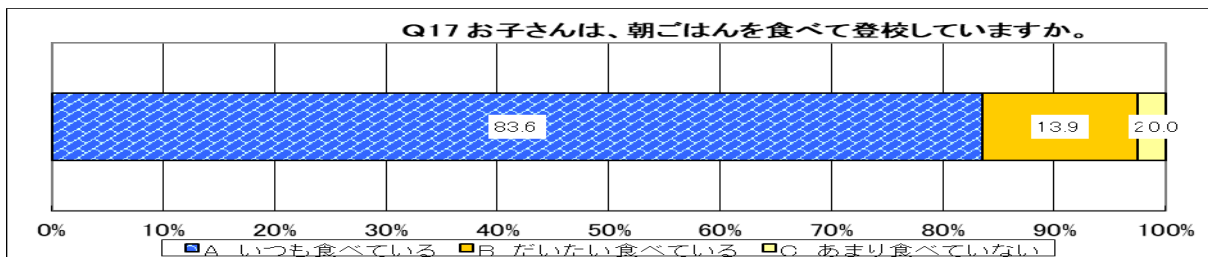
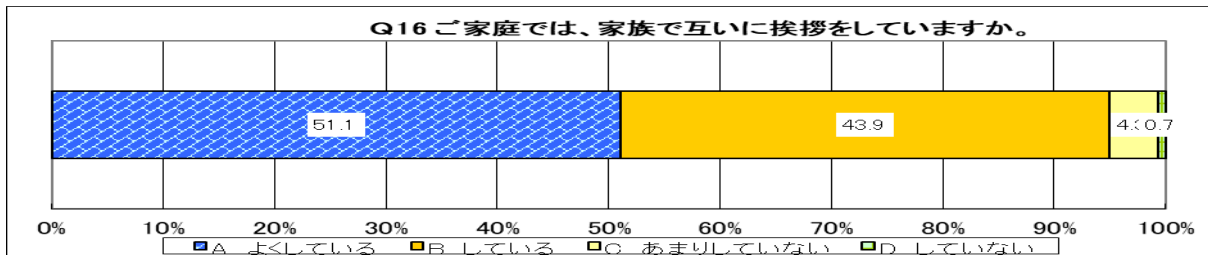


- そのほかに肯定的な回答が低かった項目は、昨年度に引き続き読書時間である。Q18「月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、1日あたりどのくらいの時間、読書を読みますか。」に対しての否定的な回答（30分より少ない+全くしない）が29%。引き続き読書指導や読書案内を推進していく。

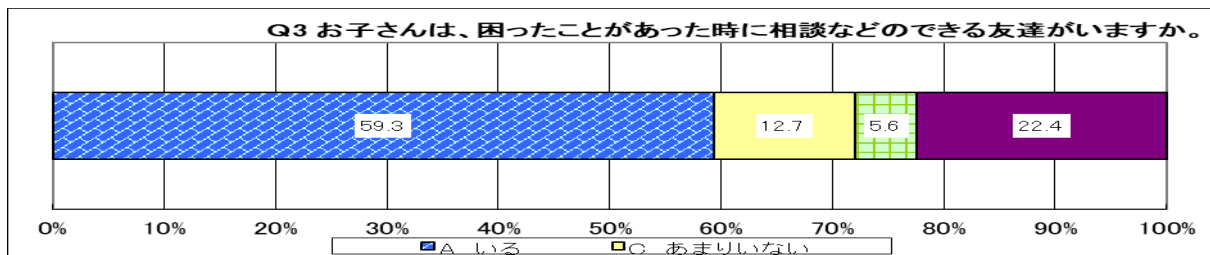


○保護者アンケートから

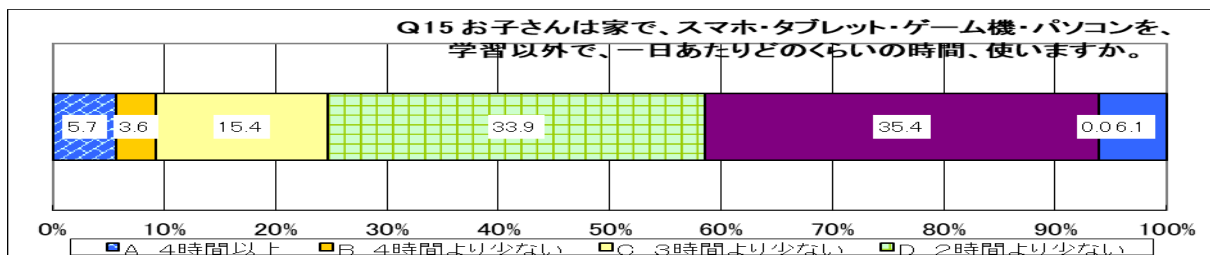
- 肯定的な回答が（80%以上）23項目中14項目あった。Q16「ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。」，Q17「お子さんには、朝ごはんを食べて登校していますか。」に対しての肯定的な回答がどちらも95%を超えており、安定した家庭習慣を身に付けていることがわかる。



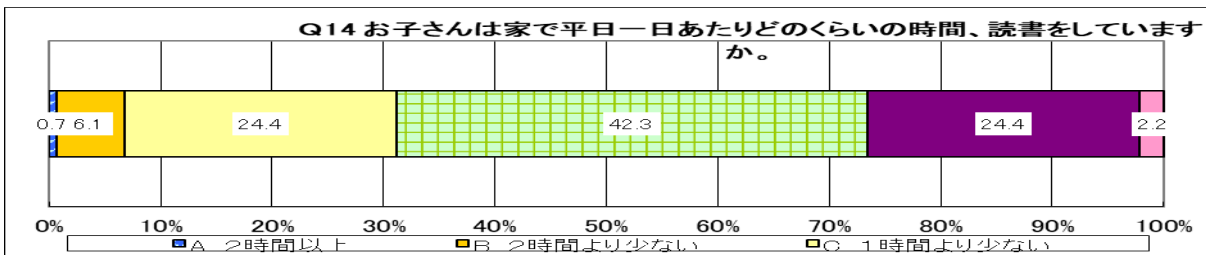
- 肯定的な回答が80%を超えなかった以下の項目は、本校の課題となる。
Q3「お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか。」に対しての肯定的な回答が59.3%。



- Q15「お子さんは家で、スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを、学習以外で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。」に対しての否定的な回答（2時間以上）が41.5%と、長時間使用していることがわかる。



- ・ Q14 「おさんは家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書を読みますか。」に対しての否定的な回答（30分より少ない）が68.9%と、読書離れ傾向を反映している。



- ・ 読書離れが顕著で、ふだんの話からも YouTube を長時間見ていたり、オンラインゲームに夢中になっている児童が多い実態となっている。こちらについても、学校での指導とともに、家庭への啓発も行っていくようにする。

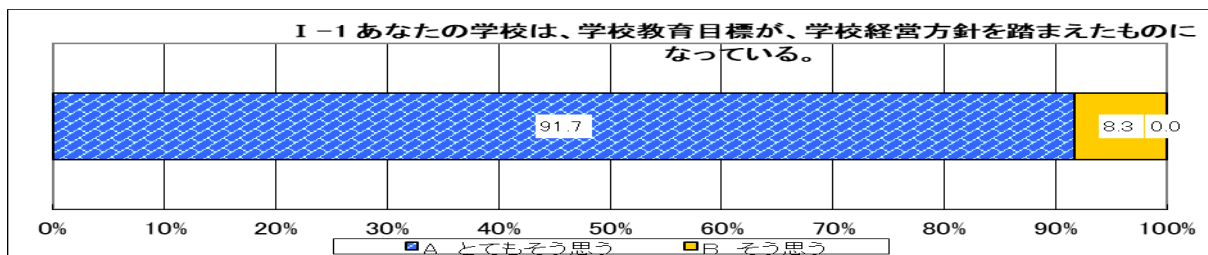
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

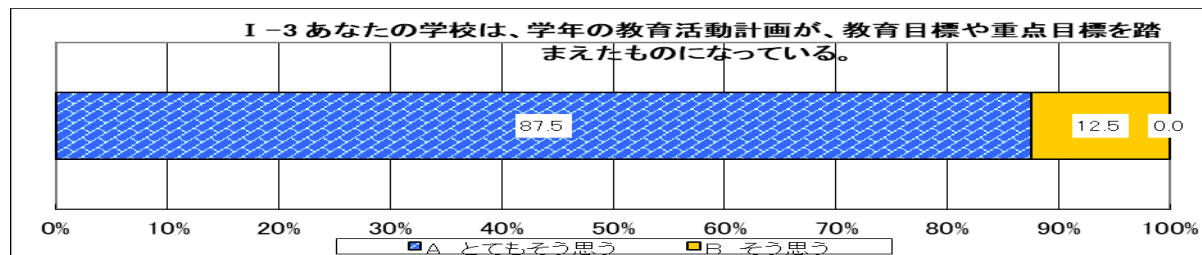
達成状況

○教職員自己評価から

- ・ 7項目全て肯定的な回答となっている。学校教育目標や重点目標の具現化に向け、年間を通して全教職員が共通理解のもと、一体となって教育活動を計画し、実施していることが覗える。
- ・ Q1 学校経営方針の推進についての A 回答は市 A 回答を 7.7% 上回り、教職員の意識した教育活動の様子が伺える。



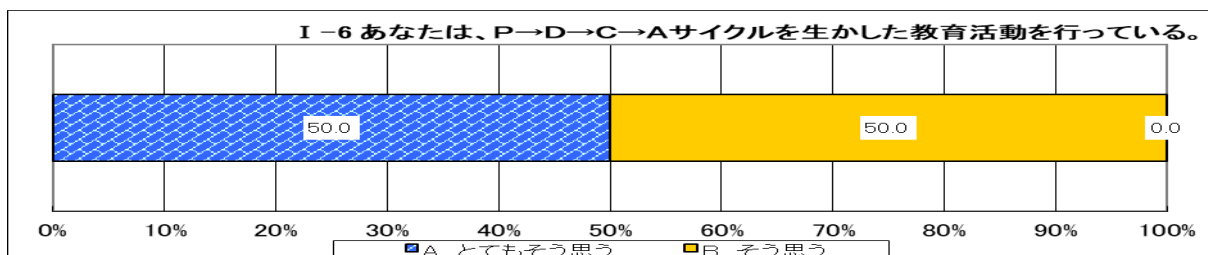
- ・ Q3 教育目標や重点目標についても A 解答が市 A 解答を 7.4% 上回り、共通理解に則った教育活動が展開されていることがわかる。



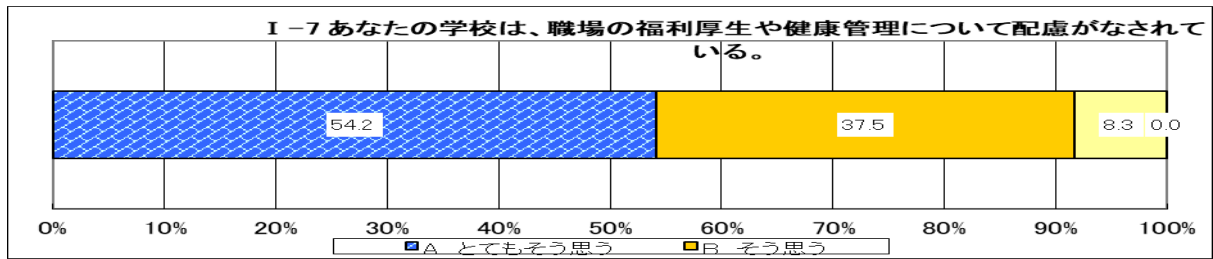
改善策

○教職員自己評価から

- ・ Q6 P→D→C→D サイクルを行かした教育活動の実施については、肯定的な回答が 100% ではあるが、A 回答だけを取り上げると他の項目に比べ低いことと、市 A 回答に比べ 2.2% 低いことがわかる。PDCA サイクルを意識し、自らの反省を行かした教育活動を意識するよう、互いに意識していく必要がある。



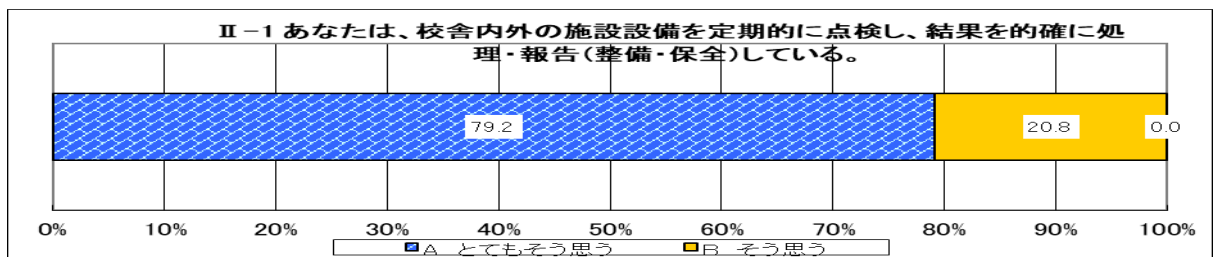
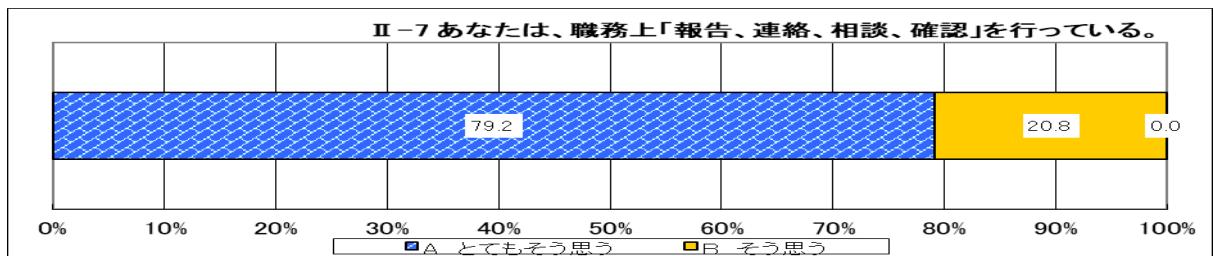
- ・ Q 7 職場の福利厚生や健康管理については、A 解答が 54.2% となっており、2 番目に低い数値となっている。それぞれがワークライフバランスを整え、ゆとりのある健康な生活を心がけるよう意識をしていく。また学期ごとのストレスチェック等も計画していく。



II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

○教職員自己評価から

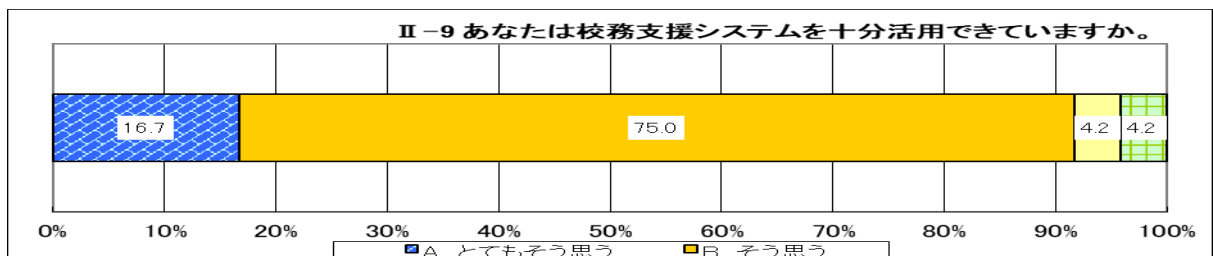
- ・ 11 項目全てが肯定的な回答となっている。Q 7 職務上の報告、連絡、相談、確認、および Q 1 施設設備の定期点検やその処理・報告については A 回答が 79.2% という結果となっており、チームでの対処等の組織的な取組が行われていることの証明となっている。



達成状況

○教職員自己評価から

- ・ Q 9 校務支援システムの活用については A 解答が 16.7% と、全ての項目の中で圧倒的に低い回答となっている。今年度導入されたシステムへの理解も十分ではないまま実務を行っている現状がある。しかし、それぞれが何度も繰り返し活用していくことでの慣れが必要となる。互いに情報交換しながら、校務支援システムを積極的に活用・推進していくようにしていく。



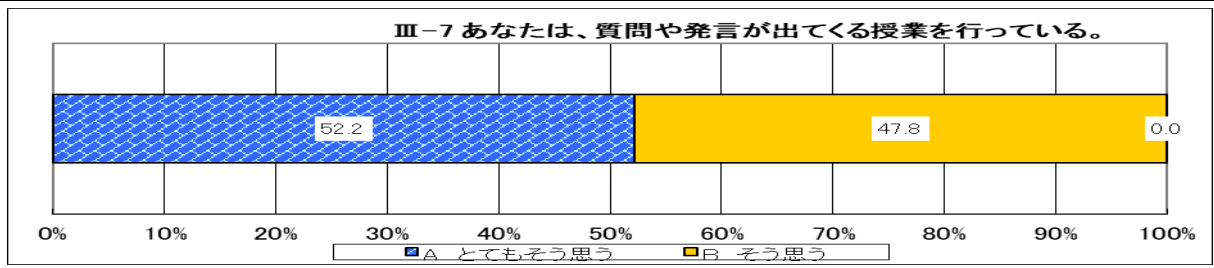
改善策

III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

○教職員自己評価から

- ・ 8 項目全てが回答となっている。特に Q 7 質問や発言が出てくる授業については、A 回答が市の A 回答より 14% 高く、学習指導要領を意識した授業改善の取り組みが反映されている。

達成状況

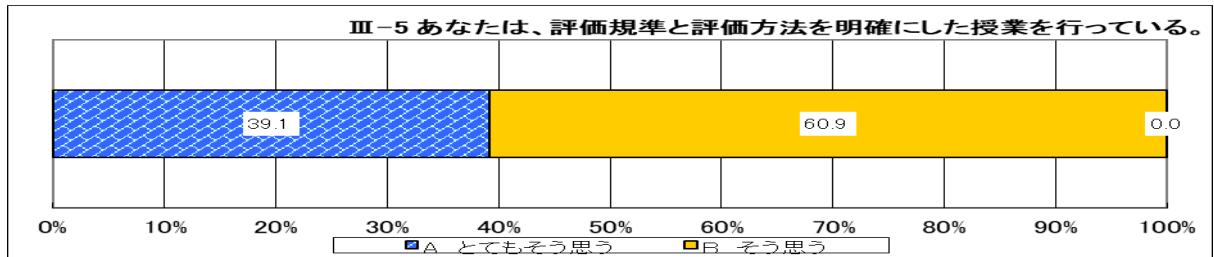


○児童アンケートから

・学習内容に関わる11項目のうち7項目が90%以上の肯定的な回答となっており、残り4項目も80%以上の肯定的な回答となっている。児童にとって授業が楽しくわかりやすいものになっていることが窺える。ただし、CDと回答した数パーセント児童がABに近づくように、更にPDCAサイクルを生かした授業改善に励んでいく。

○教職員自己評価から

・学習指導についての8項目全てが90%以上の肯定的回答となっている。しかし、Q5評価規準と評価方法を意識した授業についてのA回答は39.1%と低い。目標に照らして評価を行うことを意識した授業展開を行うことを、教職員で再確認していく。



改善策

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

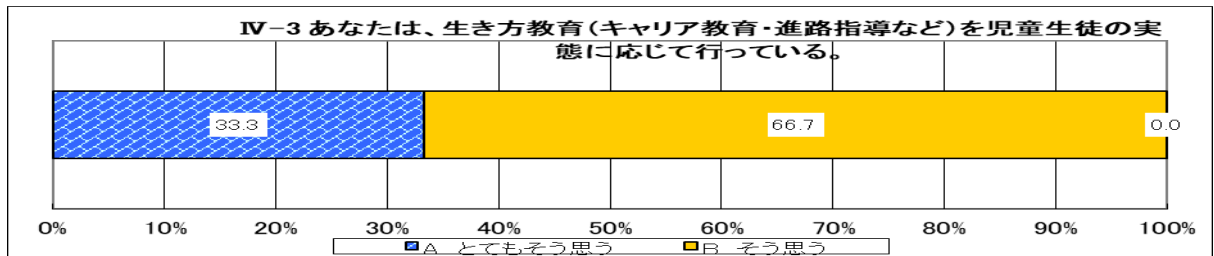
達成状況

○教職員自己評価から

・生徒指導に関わる6項目全てが100%の肯定的な回答となっている。教職員が意図的・計画的に、また真摯に児童生徒指導にあたっていることが反映されている。

○教職員自己評価から

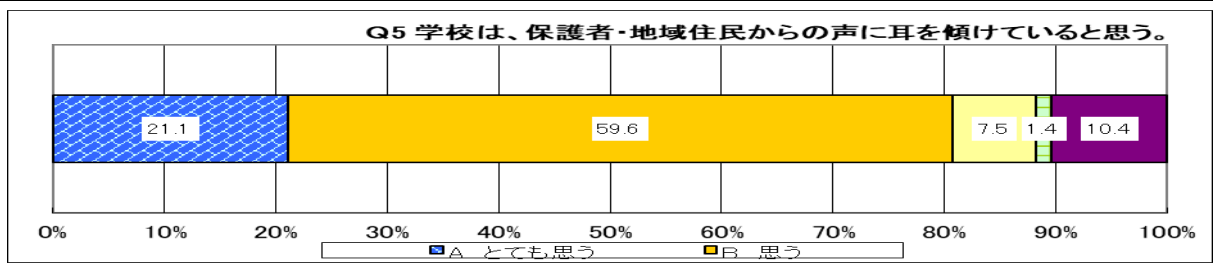
・その項目も肯定的意見であるが、A回答だけに限るとQ3キャリア教育についての部分が54.2%と低い傾向にある。1年生から6年生までの学校全体を通したキャリア教育について、もう一度つながりを確認し、学校全体で児童のキャリア推進を図っていく。



改善策

○保護者アンケートから

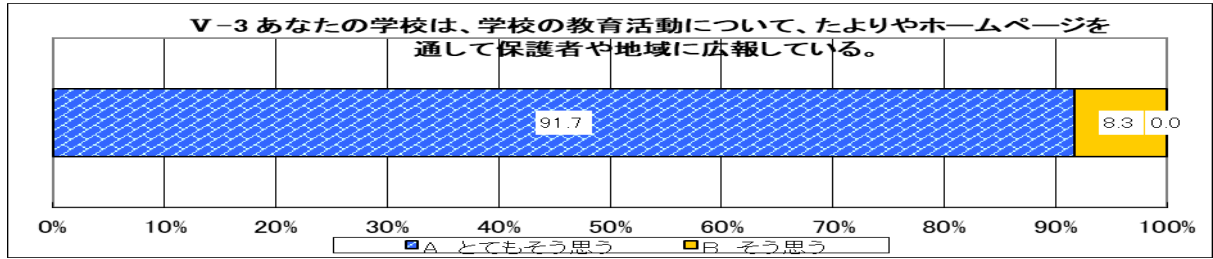
・Q5「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」については、生徒指導の相談等も関わる部分である。肯定的回答をいただいているが、A回答に関わっては21.1%となっており、保護者や地域の意見を受け止め真摯に取り組む教職員の姿とのギャップを感じる。学校組織として、物事に対しての対応後の連絡やその後の経過報告まで意識して、説明をしていく必要がある。



V 地域との連携について

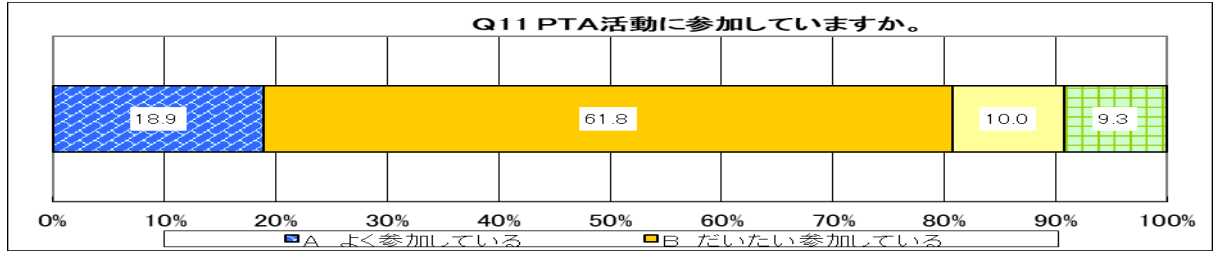
達成状況

○教職員自己評価から
 ・地域との連携に関わる8項目全てが100%の肯定的な回答となっている。特にQ3HP（ホームページ）や学校だよりでの広報は、A回答が91.7%となっており、市のA回答より20%上回っている。今後も児童の情報を積極的に広報し、学校への信頼につなげていく。



改善策

・課題としては、Q4PTA活動への主体的な関わりが挙げられる。今年度はコロナ感染症の影響もあり、活動自体が停滞していた部分もある。次年度はコロナ感染症の防止対策を図りながら、できる限りのPTA活動を推進していく。



VI 学校の特色に関して

達成状況

○教職員自己評価から
 ・5項目全てが肯定的な評価となっている。全職員が共通理解し、地域や児童の実態を把握しながら、教育活動を推進していることがわかる。今後も学校開放日、双西タイム、あいさつ運動、心の教育、ショートタイム等、特色ある教育活動に継続した取組を図っていく。

3 まとめ

<成果>

- ・教職員が日頃から高い課題意識を持って教育活動に努めており、学校教育目標に基づいた適切な学校運営がなされている。
- ・地域と学校が良好な関係を築いており、コミュニティ・スクールとして、「地域とつむぐ授業が推進され、特色ある学校づくりがなされている。

<課題>

- ・近年の読書離れとスマホ・携帯・ゲームの長時間化は、本校の児童にそのまま当てはまる。学校での対策を進めながら、繰り返し保護者への啓蒙を推進していくよう努めていく。
- ・地域とともにつむぐ授業を、これからも継続的に深め広げていくためにも、活動の広報を進め、保護者の更なる協力が得られるようにしていく。特に喫緊の課題となるタブレット端末の活用や外国語については、地域との連携を模索していく。

